

「純情産地いわて」を支える 担い手対策の新たな取り組みについて ～「GAP」「スマート農業」そして「全農広域土壌診断システム」～



純情産地発 **KLARA** vol.846 **1**
クラーラ 2020



contents

新春ごあいさつ	02	営農支援レポート	07
特集 「純情産地いわて」を支える 担い手対策の新たな取り組みについて	03	いわて純情むすめ ハーフタイム	08
イベント情報	06	ニュースワイドアングル	10

タイトルのKlara (クラーラ) は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

新春ごあいさつ



運営委員会 会長
久保 憲雄

あけましておめでとうございます。謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
JAIいわてグループの会員JAI農家組合員・役員ならびにご家族の皆さま方には、令和となり初めてのお正月をお揃いで迎えのことがお喜び申し上げます。

昨年は多くの台風が日本列島を襲い、各地で災害が発生した年でありました。本県においても10月に発生した台風19号が農産物に与えた被害は甚大な被害をもたらしました。あらためて被害を受けた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。
近年、頻発する気象変動を起因とした災害はもはや稀疎なことではなく、いつ発生しても対処できるような営農への備えが必要であるとあらためて考えさせられた年でありました。
さて、国内の農業・JAを取り巻く情勢を見ますと、農地の集積化はすすんでいるものの、一方で集落営農組織・法人における労働力不足による営農継続困難が新たな問題として顕在化してきています。また追い打ちをかけるように、すでに発効されたTPP11協定・日欧EPAや、本年から発効される日米貿易協定による農畜産物の関税引き下げにより、かつてない農畜産物の総自由化となることで国内の農畜産物生産基盤の弱体化を層高めるものと懸念され

ています。
このような懸念を踏まえ、本年改定が見込まれる「食料農業・農村基本計画」に対し、JAIいわてグループとして、「平時より「質」と「量の両面で食料安全保障の確立をおこなうための要請を政府に対し実施しています」。

このように国内農業が大きな転換期を迎えている今、本会は今次3か年計画の2年目となる本年、「第45回JAI岩手県大会」の決議を踏まえ、「純情産地いわての生産基盤の拡充」「県産農畜産物の販売力強化」「生産者手取り最大化に向けたトータルコストの低減」を具体化する施策をさらに深化させていきます。あわせて、各連合会と協力のものとJAI経営基盤の強化に向けた支援をすすめてまいります。
これらの施策を目に見える形で実践することで、持続可能な本県の農業振興、農家組合員の所得増大と地域の活性化、あわせて将来にわたる県内農家組合員が安心して営農活動が継続できる生産基盤を確立できるよう、引き続き職員一丸となつて取り組んでまいります。
新しい年を迎え、本年も皆様方の変わりぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、益々の「健勝」と「発展」を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



県本部長
畠山 俊彰

新年明けましておめでとうございます。令和2年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。
昨年は年号が移り、令和の新たな時代を迎えたわけですが、本会においても今度3か年（令和元年から3年度）計画の初年度として、①純情産地いわての生産基盤拡充②県産農畜産物の販売力強化③生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減を柱とする、5年後10年後を見据えた新たな事業プランを着実に実践してまいります。

この新たな事業プランの2年目となる本年は、引き続き、会員JAおよび農家組合員とともに食と農を通じた豊かな地域社会を築くための機能発揮や、JA経営基盤強化に向けた取り組みに力点を置き、事業推進をはかっています。
具体的には、「低利用未利用農家への系統誘導」対策において、営農支援部がグループ機能を発揮し、販売・購買部門が一体となった施策を強化します。米穀部門では、より現場に近い米穀推進センターを核として、JAと一体となった集荷推進強化をすすめます。生産資材部門では、営農支援部や販売部門からの情報をもとにして、生産資材の利用推進をすすめることにも、生産コスト低減対策を実施することで系統利用拡大をはかります。
また、「純情産地いわて生産基盤拡充対策」として、園芸部門では、大型稲作経営体への園芸品目作付け推進を含む、新規規模拡大対策の充実と既存農家の反収向上への取り組みをおこないます。畜産酪農部門では、借り腹事業を核とした「和牛」の県内一貫生産システム体系の拡大をすすめることにも、家族経営的畜産農家への支援を強化します。

「県産農畜産物の販売力強化」については、消費ニーズにもとづく販売対策を実施することで「純情ブランド」の地位向上につとめます。米穀部門では、県オリジナル品種「金色の風」「銀河のしずく」のさらなるブランド化により、消費地要望を踏まえた作付け誘導をすすめます。園芸部門は、直接販売のさらなる拡大をすすめることとで農家手取り最大化を実現するとともに、物流課題の解決に取り組めます。畜産部門では、引き続き「いわて牛」「いわて純情豚」のブランドのPR強化をおこない、付加価値販売を実践します。これら販売強化対策については行政機関と連携することで、より効果的にすすめてまいります。

「生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減」について、営農支援部における農家手取り最大化実践メニューのモデル経営体の拡充をおこなうことで、県内への水平展開をはかります。また、新たな機能厳選トラクターの利用拡大をすすめる、農家組合員の利便性を高めます。
くわえて、肥料農業におけるスマートフォン受注システムの早期構築につとめることや、「JAでんき」の普及拡大、またドローンに代表されるICT、AIを活用した農業生産提案など、新たな事業分野へ果敢に挑戦していきます。
本会は、JA組合員の皆様の声と真摯に向き合いながら、皆様のご期待に応えてまいります。そのために、より着実に、かつ迅速にJA自己改革の実践をすすめていきたいと思います。成果をあげることで岩手の農業の発展および農家組合員の所得増大のために邁進していく所存でございます。
本年も引き続き皆様のより一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



ドローンによる水稲直播鉄コーティング種子播種の様子 (JA新いわて管内)



「全農式点滴灌水キット」を活用したネギの様子 (JA新いわて管内)



アシストウェアの着用の様子

「Z-GIS」による「天晴れ」の解析結果の表示例



※国際航業が提供する、人工衛星リモートセンシングで農作物の生育状況診断を行う営農支援サービス「天晴れ(あっぱれ)」(上記)の解析結果を、JA全農が提供する営農管理システム「Z-GIS」上で圃場の面積や品種など営農情報と併せて「見える化」することにより、生産者の圃場管理の効率化、高度化をはかるとともに、JAグループの営農支援体制の強化をはかります。

1. はじめに

本会では、営農支援に関し、これまで総合的な実践と支援を行っています。今回は、「純情産地いわて」ブランドの維持・向上のために、農産物の品質向上・農業経営の効率化・消費者の信頼確保に寄与する「GAP」、農業の生産性向上・生産者の所得向上につながる「スマート農業」、そして、ICTを活用する新たな「全農広域土壌診断システム」を紹介いたします。

2. GAP

2020年東京オリンピック・パラリンピックへの食料調達基準に第三者認証によるGAP取得が要件化されたことを契機に、全国各地でGAPへの取り組みが活発化しています。

※GAP(農業生産工程管理、Good Agricultural Practiceの略)とは、農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みです。

本会では、第三者認証を必要とするGAP(GLOBALGAP・ASIAGAP等)の取得をめざす産地に対して、県やJA県中央会とも連携した支援を行ってきました。具体的には、一昨年よりJA新いわて管内のレタス生産者(奥中山)・ブロッコリー生産者(宮古)、JAいわて平泉管内の金色の風生産者に対する、現地支援を実践しています。また生産者のGAP認証取得を推進する指導者育成を目的として、JA職員を対象にした「GH農場評価員養成講習会」を開催しています。

3. スマート農業

県内では、農業生産規模の拡大が進展し、圃場管理や農業労働力の確保が課題となつております。本会では、このことに対するアプローチとして、農作業の省力化に寄与する「ドローン」「圃場環境制御用センサー」「アシストウェア」や農作業・農業経営の可視化に役立つ「クラウド型営農管理システム(Z-BFM)」の普及拡大に取り組んでいます。



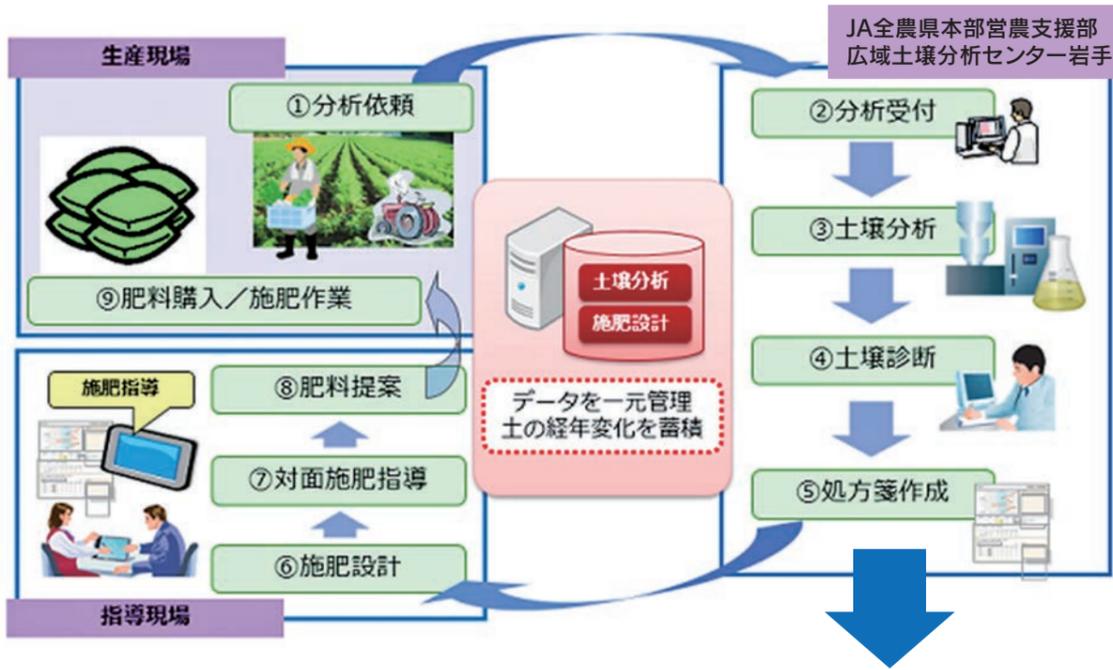
JAいわて平泉「金色の風」栽培研究会がASIAGAP団体認証を取得



GH農場評価員養成講習会の様子(雫若江農園にて)

4. ICTを利用した土壌診断システム

本会は、これまで全国9か所の「全農広域土壌分析センター」と連携し、県域を越えた土壌分析、



施肥コスト低減の普及拡大
(担い手農家・大型経営体等への各種施策提案)

「全農広域土壌診断システム」のイメージ図

土壌分析結果に基づく処方箋作成・JAに対する指導業務を行っています(県内の土壌は年間約5,000点を分析)。

ただでなく、適正な施肥の実施等、肥料コスト低減の視点からも大変重要です。

今年度からは、分析する土壌の受付から処方箋作成、生産者へのフィードバックを一元管理できるシステムを導入し、より迅速に生産現場で施肥指導ができる体制を構築しました。

現在、担い手農家等に対するオーダーメイドによるBB肥料の供給拡大や「BB肥料大規模農家対策」の拡充など施肥コスト低減の普及拡大に向けた各種施策を講じており、引き続き、担い手農家・大型経営体等に対する農家手取り最大化につながる取り組みを強化します。

5. おわりに

本県耕地面積の約8割を占める中山間地域は、その農業生産基盤の強化が喫緊の課題となっています。本会は、「スマート農業」など新たな事業領域での具体的な提案活動を強化することで、引き続き支援してまいります。



営農計画策定支援システム Z-BFMによる経営改善支援
※本内容はイメージであり、今後連携する内容を含みます。

全農レポート2019 スマート農業イメージ図から抜粋



長澤会長の開会挨拶



受賞JAのTAC集合写真



表彰の様子

JA新いわてで営農経済部の八重畑部長代理は、受賞JAの事例報告で「担い手ニーズの把握・時代に即した情報の伝達など、TAC活動の基本を忠実に、地域の農家たちと一緒に農業を展開していくと



JA新いわて八重畑部長代理による事例報告

生産者と共に奮闘する
営農支援部の活動をレポート

TRY! 営農支援 レポート

快挙！JA新いわてが「JA表彰全農会長賞」を受賞！



営農支援課
佐々木歩

JA全農は、11月14日(木)～15日(金)に横浜市内で「TACパワーアップ大会2019」を開催しました。本大会は、全国で活躍するTAC(タック)地域農業の担い手に向くJA担当者)の活動成果を共有し、出向く活動のレベルアップとTACのモチベーション向上を図ることを目的に、毎年開催しています。

JA新いわての高評価につながった取り組みとして、①農家手取り最大化に向け、6モデル経営体でのコスト削減・省力化技術の11メニュー実践を通じた農業所得33%増の達成、②ドローンによる水稲直播で作業時間を3/4に削減、③プロソコリー産地形成に向けた、地元宮古漁協との連携による夏場の品質保持用の水調達ルートの確保や、グローバルGAPの認証取得への支援を通じて担い手農家のモチベーション向上をはかったこと等が挙げられます。

JA新いわての栄誉と本大会で受けた刺激を糧に、JA全農いわては担い手の多様なニーズに応え、生産者と地域農業の発展に向けたJAのTAC活動のサポートにより、一層

「農業の総産出額拡大と生産基盤確立に向けた担い手の育成・確保、労働力支援、新技術やICTの活用などあらゆる手段を講じる上で、TACの力は必要不可欠」と参加者にエールを送りました。

大会初日は、優れた成果を残したJAとTACの表彰や事例発表・基調講演が行われました。

JA表彰は、JA新いわて・JAたじま(兵庫県)・JA筑前あさくら・JAふくおか八女(ともに福岡県)の4JAが受賞、特に本県のJA新いわては最優秀賞に当たる全農会長賞に輝きました。

「JA全農経営管理委員会の長澤会長は、「農業の総産出額拡大と生産基盤確立に向けた担い手の育成・確保、労働力支援、新技術やICTの活用などあらゆる手段を講じる上で、TACの力は必要不可欠」と参加者にエールを送りました。

大会2日目は、TAC表彰及び担い手向けTAC通信表彰(TAC通信)TAC自らが作成する担い手への情報提供ツール)の事例報告と、担い手の経営課題に際する実践的な分科会が行われました。この中で、JA新いわての苅谷常務が「TACの体制と人材育成について」と題し、TACに求められる人材像について講演しました。どの参加者も、地域の担い手が抱える課題の解決に向けて、受賞事例に熱心に耳を傾けて議論する姿が印象的でした。

本県JAの栄誉と本大会で受けた刺激を糧に、JA全農いわては担い手の多様なニーズに応え、生産者と地域農業の発展に向けたJAのTAC活動のサポートにより、一層

毎月行われる イベントを 紹介します! Monthly Event Introduction

1月開催予定イベント

1月6日～2月29日	畜産酪農部	いわての牛乳 ありがとうキャンペーン
1月7日	営農支援部	第8回TACアグリビジネススクール
1月11日～13日	米穀部	いわて純情米選手権第43回 岩手県ミニバスケット交歓会
1月21日	畜産酪農部	いわて牛の集い
1月22日	畜産酪農部	第30回いわて牛枝肉共励会
1月25日～26日	総合エネルギー部	ほっとゆだ2020北日本雪合戦大会
1月29日～30日	営農支援部	岩手県TACパワーアップ大会

スケジュールは変更になる場合があります

390(サンキュー)名様に当たる!! いわての牛乳ありがとうキャンペーン

【期間】1月6日(月)～2月29日(土)

畜産酪農部



いわての牛乳 ありがとうキャンペーン

純情産地いわて 宣伝部長のん

合計 **390**名様に
抽選で当たる!

キャンペーン期間
2020年 1/6(月)～2/29(土)

2名名

Dyson Pure Hot+Cool
空気清浄ファンヒーター

3名名

ヘルシオ ホットクック

4名名

選べる!ペア宿泊券

チャンス.1

10名を一口としてご応募ください

A賞
5名

Nintendo Switch

B賞
6名

ミルクカップフォーマー

C賞
10名

いわて純情ギフト
5,500円コース

D賞
30名

いわて牛焼肉
もも・はらミックス

E賞
50名

ミルクおに QUOカード
3,000円分

F賞
80名

岩手県産米ギフト
2.7kg

チャンス.2

100名を一口としてご応募ください

リッチコースまたはチャンス.1にはずれた方の中から抽選でいずれかが当たる!

100名名

いわての牛乳
乳製品詰合せ

100名名

いわての牛乳オリジナル
フェイスタオル

対象メーカー

- ・(有)安比高原牧場
- ・小岩井乳業(株)
- ・大石乳業(株)
- ・不二家乳業(株)
- ・(一社)葛巻町畜産開発公社
- ・岩手ふるさと農業協同組合
- ・(一社)田野畑村産業開発公社
- ・奥中山高原農協乳業(株)
- ・岩泉ホールディングス(株)
- ・(株)おおのミルク工房
- ・(株)湯田牛乳公社
- ・タカナシ乳業(株)
- ・(株)岩手牛乳

応募方法: 対象メーカーの牛乳パックに記載の公正マーク表示部分を10分(1ℓ=10枚、500ml=20枚、200ml混合可)を1口(リッチコースは20分を1口)として、専用応募封筒または一般封筒に必要事項を明記の上、ご応募ください。お一人様何口にもご応募いただけます。公正マーク表示部分の種類別名称に「牛乳」以外の名称が記載されているものはキャンペーン対象外です。(加工乳・低脂肪乳などは対象外)

応募締切: 2020年3月2日(月)【必着】



「2019いわて純情むすめ」として活動を始めてから、早くも半年が経ちました。初めてのことに戸惑ってばかりいた彼女たちも、いつしか活動に対して自分の思いを持つように。折り返し地点を迎えた今、これまでの活動を振り返り感じたこと、また残り半年に向けた抱負を語ってもらいました。司会進行役は、「2019いわて純情むすめ」イチのしっかり者、瀬川愛理さんです。



印象に残っている仕事は何ですか？

有紗 私は、仙台市藤崎での「冬恋はるか」の試食販売です。試食してくれたお客さんがみんなとても喜んでくれて、「もう一個食べていい？」って聞いてくださった方が多かったのが印象的でした。寒い日だったので、お客さんがカイロをくれたり、「頑張つてねって言うてくれたりして、心が温かくなったな。色々な業務があるけれど、やっぱり試食販売が一番好きだなって思いました！」

彩女 私は、キュウリビズキャンペーンかな。東北6県の私の地元のような「PRスタッフ」が集まって各県のキュウリをアピールするっていうイベントだったんですけど(笑)6県のPRスタッフと会うことができて、とても刺激をもらえました。東北の中で同じものを作っている、その中で岩手独自の色を出していくにはどうしたらいいのかなってすごく考えさせられました。

唯愛 私は純情アスリートの仕事が残っています。テレビの仕事なので、普段の販促イベントとはまた違う緊張感がすごくあって、貴重な経験をさせていただけただけ。人生初のテレビ収録で分からないことだらけだったけど、現場のスタッフの方にサポートしていただいて、楽しみながら撮影ができました。

愛理 私は、東京の食肉市場まつり。岩手から離れた東京でも「いわて牛」を知っていて買に来てくださる方もいて、岩手の農畜産物には、県外にもこんなにファンがいるんだなって実感できた仕事でした。祭り自体もすごく楽しかったですよね！

私も一緒に参加したんだけど、帰りに「いわて牛」をブロックでたくさん買いました(笑)岩手に帰ってきて、ビーフシチューにしたりステーキで食べたり。今では「いわて牛」の大ファンです！

一同 おおー！(笑) そんな市場まつりと迷ったんですが、私はやっぱり、さんさ踊りがとても印象に残っています。大勢の観客の前でさんさ踊りをするのは緊張したけど、このみんなを踊れたことがすごく楽しかった！さんさ踊りに参加したのは人生で初めてで、その機会を純情むすめとして迎えられるのが嬉しかったな。一生の思い出です！

いわて純情むすめになって、自分自身に変化成長はありますか？

唯愛 私は、自分から積極的に行動できるようになったって思います。スーパーでの販促活動でも、事前にPRする農畜産物を調べたり、受け身ではなく能動的に行動する癖がついたような気がします。

愛理 私も、今までは岩手県の農畜産物についてあまり知らなかったけど、自分で色々な情報を調べるようになったな。私たちはPRスタッフだから、私たちが消費者に直接「言葉で伝える」ことってすごく大事だと思う。

一同 好奇心をもって、生産者の方とお話をしたり情報収集をしたり、いろんなことを吸収しようとする姿勢があつて、見習い割だよな！

いわて純情むすめとして新たにチャレンジしたいことやってみみたいことなどありますか？

愛理 私は、小中学生への食育イベントをもっとやってみたいな。やっぱりこれからの将来を担う子供たちに岩手のものを好きになってもらいたい。

彩女 私も、学生に向けてのイベントをもっとやってみたい！今は小さい子に向けた食育イベントが多いけど、中学生や高校生とか近い世代に向けた食育イベントがあれば、これからの若い世代をまきこんでいけるんじゃないかな。

有紗 私は、純情むすめ5人でテレビCMに出してみたいです。私の親より上の世代は、純情むすめを知ってくれている人が多いけど、若い人に向けて「こんないるんだぞ！」っていうのを知ってもらいたい(笑)

絵里香 私は、純情むすめを知ったきっかけがCMだったんです。初めてCMを見て「こういう人たちがいるんだ！」って憧れるようになった。だから、CMとかラジオとかのメディアにももっと出て、もっと私たちを知ってもらいたいなって思います。

唯愛 私も、もっと同世代に私たちを知ってほしい！今回、Instagramを始め始めるんですよ？Instagramの機能を活用してアンケートを行ったり、ストーリーを投稿したりして、若い世代

愛理 たいなってます！刺激をもらってるよ！もともと好奇心が旺盛な性格なんです(笑)だから、たくさんの方とお話できる純情むすめの仕事は本当に楽しい！私が苦手だったんです。でも活動をやっていく中で、人とコミュニケーションをとることが大好きになりました。あと、スーパーで大きい声を出して呼び込みをしたりすることが楽しく感じたり(笑)成長したなっておもいます！

有紗 人前に立つ仕事だから、自然と度胸はついたよね！私も人見知りのことが悩みだったんだけど、人とコミュニケーションをとることが大好きになりました。あと、スーパーで大きい声を出して呼び込みをしたりすることが楽しく感じたり(笑)成長したなっておもいます！

愛理 遠野の農業祭で「牛乳早飲み大会」があつたとき、有紗ちゃんが「出たい！」って言うて自分から参加してたよね(笑)

一同 私は、スーパーで食材を買うときに県産の農畜産物を意識して選ぶようになりました。今まではあまり気にしてなかった産地のことに気を付けると、今まで何気なく買っていたものも「これも県産なんだ！」って気づきがあつたりして買物が楽しくなりました。

唯愛 私も、産地に気をつけるようになった！今でも産地を気にしてないなかつたわけじゃないけど、「国産のものを買おう」ってなんとなく漠然としていたんです。でも今は、「近くのものを買おう」って明確に思うようになりました。そうやって産地を意識するようになると、産直がすごく魅力的な場所を感じるようになった！

全国の消費者は、県産農畜産物をどのように捉えていると思いますか？

彩女 いわて牛の販促活動をしたときに「いつも岩手産を買っているよ！」と声をかけてくださる方が多くて、一度手に取ってもらえたり、食べてもらえたりと、継続した消費につながるだけの魅力が岩手県産のものにはあるんだなってすごく感じた。でもまだまだ知らない人も多くて、知っててもやっぱり、実際に食べてもらうまでの工夫が大事なんだと思う。食べてもらえたら、絶対ファンになってくれるはず！

一同 いいねー！の試食の集客率をUPできるんじゃないかな？

愛理 私は、「いわて純情むすめ」の活動は知らなかつたことをどんどん吸収していきける場だと思っています。まだまだ貪欲に学びながら、プロの方にも負けないようなPR力を身に付けていきたいなって思っています。

有紗 あつという間の半年間だったけど、自分がいわて純情むすめとして活動できることに本当に感謝しています。後半戦も、どの活動も全力で、自分をさらにレベルアップさせられるよう向上心を持って頑張ります！

唯愛 岩手の人たちの温かさをいっぱい感じた半年間でした！全国の消費者の方々に岩手の良さを届けられるよう、積極的にいわての農畜産物をどんどんPRしていきます！

絵里香 私は、この半年間は、関わったたくさんの方々に支えてもらいながらの活動だったなって思います。教えていただいたことや、前半の活動で学んだことを活かしながら、残り半年の活動も5人全員で楽しみたいですね。

彩女 一つ一つの業務に責任を持って、生産者の方の熱い思いをより多くの消費者へ届けられるように、笑顔を絶やさず私らしく純情むすめとしての時間を全うしたいなって思っています。5人での活動もあと半年だと思つて寂しいけど、

一同 本当は寂しい〜！

一同 あと半年もきつとあつという間に過ぎてしまふ気がするけれど、だからこそ全力で県産の農畜産物をPRしていきたいですね。残り半年も5人で楽しく頑張りましょう！

唯愛 私、名古屋の販促イベントに行つたときに、「銀河のしずく」の人気の高さにびっくりしました。「銀河のしずく」買つてるよ！」って言うてくださる方が多くて、なんだか嬉しくなりました。

有紗 私も、「岩手のものはおいしい」ってイメージを持ってもらいたいと思います。販促イベントで、買うかどうかわ迷っている方に試食を進めると、ほぼ100%買つてくれるんです！岩手の農畜産物は全国の人が通じるおいしさだと思つているから、自信を持っておすすめしています。

絵里香 私は、やっぱり岩手はとにかく自然が豊かで農業が盛んっていうイメージが強いと思います。いい意味で「田舎」というか(笑)生産者も消費者の方もいい方ばかりだ。だからこそ岩手の農畜産物は信頼されているんだなって思います。私もそう思う！「冬恋」だったり「銀河のしずく」だったり「岩手」と言つたらこれだ！っていうものを作ろうとする熱い気持ちや秘めている方が多いなって思っています。その人たちの思いを私たちが消費者に届けて、つながりを作っていける存在になれたらなって思っています。

彩女 たしかに！生産者の方の思いとか生産者の方が話す「農業の面白さ」っていうもの

一同 私には優位性を磨くことが大事だと思う！県産の農畜産物は何がいいのか、他県の農畜産物と何が違うのか明確

有紗 私は、大学の学食で「県産農畜産物フェア」をやつたのって、小さい子供やご年配の方が多い印象で、学生や同年代の人はなかなかいないなって思っています。PRする場をいただいても、若い世代にPRする機会がなかなかないのは残念だね。

唯愛 私も、ポスターとかメディアを使ったPRがいいと思う！。インパクトのあるポスターでPRすれば、目に留まりやすいんじゃないかな。

絵里香 CMやポスターでのPRが良いんじゃないかな。自分たちが良いと思つていることを、自信を持って発信することが大事かな。

一同 うんうん！

さらに県産農畜産物をPRするためには、どのようなことが必要ですか？

有紗 私は、大学の学食で「県産農畜産物フェア」をやつたのって、小さい子供やご年配の方が多い印象で、学生や同年代の人はなかなかいないなって思っています。PRする場をいただいても、若い世代にPRする機会がなかなかないのは残念だね。

唯愛 私も、ポスターとかメディアを使ったPRがいいと思う！。インパクトのあるポスターでPRすれば、目に留まりやすいんじゃないかな。

絵里香 CMやポスターでのPRが良いんじゃないかな。自分たちが良いと思つていることを、自信を持って発信することが大事かな。

一同 うんうん！

さらに県産農畜産物をPRするためには、どのようなことが必要ですか？





● 5年に1度!「和牛のオリンピック」に向けて意識統一

令和元年11月28日(木)

第12回全国和牛能力共進会決起大会

第12回全国和牛能力共進会(以下「全共」)鹿児島大会に向けた決起大会を(公社)全国和牛登録協会岩手県支部主催で令和元年11月28日に盛岡市玉山の姫神ホールで開催しました。

全共は、「和牛のオリンピック」とも言われ、5年に一度開催されます。和牛の能力と斉一性の向上を目指し、時代のニーズに合わせた和牛改良の推進と、将来に繋がる優秀な素材を生産・発掘し出品展示することによって、その成果を糧とした次代への技術の継承を目的としています。

第11回大会は平成29年に宮城県で開催され、次回第12回大会は令和4年10月6日から10日まで鹿児島県で開催されます。

決起大会には、県内の和牛生産者・JA・市町村・関係機関等の総勢360名に出席頂きました。(公社)全国和牛登録協会本部の向井文雄会長理事と、次回開催県である(公社)全国和牛登録協会鹿児島県支部の坂元信一副支部長より記念講演を頂き、全共が果たす育種改良への役割や、鹿児島県の和牛の現状等について、出席者との意識統一をはかりました。

全共は、全国各地から注目が集まる絶好のPRの場。産地の特色を前面に押し出し、血統的にも特徴ある岩手県有種雄牛で出品します。さらに、その成果を継承することで、「いわて牛」の更なる発展に寄与してまいります。

全共に向けての交配期間は、肉牛の部が2019年12月27日からの1か月間、種牛の部の総合評価群(種牛群)が2020年4月から6月までの3か月間で、集中的に取り進める計画です。生産者の皆様には引き続きのご協力の程、宜しくお願い致します。

生産者・農協・関係機関が三位一体となり、共に「頂」を目指しましょう!



令和4年に向けて、岩手県一丸となって取り組みます!

● 安全・安心の養豚経営へ

令和元年11月12日(火)

令和元年度岩手県農協養豚経営者連絡協議会研修会

11月12日(火)に花巻市で岩手県農協養豚経営者連絡協議会による研修会が開催されました。県内生産者・農協・JA全農いわておよび関係会社の畜産関係者40名が出席し、平成30年度肉豚出荷成績優秀者の表彰式を行いました。年間肉豚出荷頭数ごとに計7者の生産者や農場がそれぞれの部門賞を受賞しました。

研修会後半には、(農)八幡平ファームや全農畜産サービス東日本原種豚場の農場紹介、岩手県農林水産部等による情報提供を実施。豚コレラウイルスへの対応策等を共有し、更なる技術向上と、安全・安心に育てた豚を消費者に提供するための意識の醸成を改めて図りました。



平成30年度肉豚出荷成績優秀者ら

■部門賞

	◆出荷頭数平準率部門賞	◆肉質上物率部門賞	◆ストライク率部門賞
年間肉豚出荷頭数 <1万頭以上>	(農)八幡平洋野牧場 (JA新いわて 久慈)	(農)八幡平ファーム (JA新いわて 久慈)	(農)八幡平ファーム (JA新いわて 久慈)
年間肉豚出荷頭数 <2千頭以上1万頭未満>	(株)のだファーム 第1農場 (JA新いわて 久慈)	有限会社七木田ファーム (JAいわて中央)	(株)のだファーム 第1農場 (JA新いわて 久慈)
年間肉豚出荷頭数 <2千頭未満>	齋藤清利 (JA新いわて 宮古)	木村誠 (JAいわて花巻 北上)	菅野智宏 (JAいわて花巻 北上)



編集後記

新年あけましておめでとうございます!私にとって2019年は、社会人・全農職員1年目として、あっという間の1年でした。戸惑うことも多く精一杯の毎日でしたが、広報

担当として成長していけるよう、引き続き頑張ります。2020年もどうぞよろしくお祈り致します! (毛塚)

● いい肉の日!「いわて牛」の学校給食

令和元年11月29日(金)

いわて牛・いわて短角牛学校給食の日

11月29日は「いい肉の日」!JA全農いわて・いわて牛普及推進協議会は、11月29日(金)、「いわて牛・いわて短角牛学校給食の日」と称し、食育イベントを開催しました。

本会職員が、盛岡市立大新小学校の5年生94名を対象に出前授業を実施し、いわて牛の特徴やおいしさの秘訣、生産から流通までの流れなどについて児童へ説明しました。

授業終了後は、職員と児童と一緒に給食を食べました。「いわて牛」を使用した「混ぜいなり」が提供され、児童は「お肉とご飯がマッチして美味しい!」と、いわて牛のおいしさに太鼓判を押しました。



笑顔溢れる「いい肉の日」になりました!

● おにぎり上手に握れたね

令和元年11月21日(木)

「銀河のしずく」おにぎり教室

岩手県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」の更なる認知促進と、花巻市内の園児への食育をはかる「銀河のしずく」のおにぎり教室が、11月21日(木)、社会福祉法人ちひろ会「ぴっこる保育園」で開催されました。

花巻市の水稲生産者川村春雄さんが、「生産者マイスター」として、園児に「銀河のしずく」の説明を行いました。年中・年長の園児25名が「銀河のしずく」の味の特徴や生産方法に熱心に耳を傾けました。

自分で握ったおにぎりを給食として食べた園児たちは、「自分で作ったからおいしい」と笑顔で話しました。



にぎやかな食育イベントになりました

● 南部ピュアポークのファン拡大を目指して

令和元年11月9日(土)

南部ピュアポーク料理講習会

(株)よこまち・JA新いわて・JA全農いわては、11月9日(土)、産直豚提携事業の一環として、「南部ピュアポーク」を使用した料理講習会を開催しました。「青森県八戸市にある八戸市公民館にて料理研究家の下田真紀子さんを講師として招き、「南部ピュアポーク」の美味しさを最大限に引き出すレシピを参加者に紹介しました。

紹介されたレシピは「大学いも豚」「肉巻き秋なすの黒酢風味」「ピリ辛厚揚げそぼろ煮」の3種類です。講習会の後は、自分たちで作った料理を実際に試食し、「美味しい」と笑顔浮かべました。



参加者の集合写真

● 県内花き生産の飛躍を目指して

令和元年11月28日(木)

令和元年度花き生産者の集い

県内各地の花き生産者を参集し、生産者の生産意欲の高揚と作付推進による花き産地の拡大をはかることを目的とした「令和元年度花き生産者の集い」が11月28日(木)、アートホテル盛岡にて開催されました。

9月6日(金)に審査・展示が行われた「いわてフラワーコンテスト2019」の表彰式と、株式会社大田花き-花の生活研究所-の内藤育子さんが「花業界のトレンドの変化について」の講演を行いました。

表彰式では、「いわてフラワーコンテスト2019」に出品された計101点の花きの中から最優秀賞・優秀賞など計30点の作品の出品者の表彰を行いました。



表彰式の様子

